

## 水土里レポート 投稿様式

投稿月日	平成26年7月15日
タイトル	「くわい」の出前授業をしたよ！
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

平成26年6月30日（月）福山市農業協同組合川口支店において、福山市立川口小学校5年生100名が、出前授業をしました。

福山市立川口小学校5年生は、生産量日本一の「くわい」を小学校で栽培し、農家の方から生の声を聞き、農業用水のしくみや環境、歴史、食文化など多方面について取材することで、郷土の農業に関心を深めることを目的とした学習に取り組んでおられます。

先日は、第1弾として「くわい」植付けの取材をしました。

その第2弾として、福山くわい出荷組合の枝広義春組合長から農家の方の生の声をお聞きする出前授業をすることとなりました。

川口小学校から歩いて福山市農業協同組合川口支店まで移動した子ども達、元気いっぱい、興味津々で会場へ入ってきました。

今回の出前授業では、最初に福山市の地産地消推進課 苗代迫主事より、地産地消やふくやまSUNブランドについて教えていただきました。

ふくやまSUNブランドは、ふくやまブランド農産物のシンボルマークで、「SUN」は「太陽の“SUN”」と、「福山“産”」と「呼称の“さん”」を掛けていて、年間日照時間が長い福山で、太陽の恵みをいっぱい受けた農産物をイメージしています。このシンボルマークを使用できるのは、ふくやまブランド農産物推進協議会が認定、登録した生産者団体やその会員となっています。

ふくやまブランド農産物の中でも「くわい」は、福山が生産量日本一を誇る農産物で、川口小学校がある川口町は、生産が盛んな地域です。

「くわい」は、厳しい規格によって大きさや色で分けて出荷されています。縁起物ですので、芽が取れてしまったりといった規格外になった「くわい」をいわゆる六次産業として利用しようと、一昨年から福山くわい出荷組合と福山市農業協同組合川口グリーンセンターが協力し「くわいっこ」という商品にして販売しておられます。

子ども達に味わってもらおうと、「くわいっこ」の試食をしました。



地産地消を教えてもらったよ！

「くわいっこ」おいしい！

サクッと揚がって瀬戸内の塩がついてるよ

つぎに、福山くわい出荷組合の枝広義春組合長から「くわい」の栽培等について教えていただきました。

福山市では約60年前から本格的にくわいの栽培がはじまり、徐々に増えていって約50年前にくわい出荷組合ができた。当時は全て手で掘っていたので非常に厳しい作業だったが、約35年前に水圧ポンプを使って収穫するようになり、17年前に埼玉県を抜いて日本一になった。

くわいの種類は、青くわい、白くわい、吹田くわいの3種類で、福山は青くわいが主流となっている。

前年の収穫時に小さいくわいを取っておいて、冷蔵庫で保管しておきます。植付け前に冷蔵庫から出すと芽と根が出てくるので、それを手で植える。

「くわい」を植えるとすぐにカモなどの鳥が食べてしまうので、農家の方は、網でほ場全体を覆ったり、カモの人形を吊るしたりと色々な方法で対策をしています。

「くわい」の収穫の時は、まず茎を刈り取る。それから、ポンプで水圧をかけて掘ります。今は、くわい自動掘取り機があって、大活躍しています。

収穫した「くわい」は、福山市農業協同組合川口グリーンセンターに集められ、東京、京都、大阪、奈良、九州、四国等へ出荷している。1年間で約200t、4kgケースを5万ケース出荷している。

説明を聞いた後、子ども達から質問があり、枝広さんが丁寧に答えてくださいました。

子ども達からの質問と回答

子ども……くわい自動掘取り機はどれくらい掘れるの？

枝広さん…1時間で500株くらい掘る。人間の4倍のスピード

子ども……「くわい」の全体の大きさはどのくらい？

枝広さん…地上の茎が1m、地下が1mで合わせて2mぐらい。

子ども……1日どの位出荷するの？

枝広さん…多い人は4kgのケースを200箱くらい。出荷組合全体では、1日で2000から5000箱

子ども……1粒何円ですか。

枝広さん…4kgの1ケースで3000円から平成25年の最高額は18000円。1粒でいうと40～50円になるかな。



パネルを使って丁寧に教えてもらったよ！



一生懸命メモしています

つぎに、福山市土地改良区から農業用水路について説明しました。

川口小学校のある川口町は、国営事業で施行された三川ダムから取水する七社頭首工用水の受益地となっており、川口町よりずっと上流から取水されていることや、農業用水を計画的に管理していることなどを説明しました。

福山市の市街地のほとんどに、七社頭首工用水が行き渡っていて、住宅地にもかかわらず多くの農作物が栽培されています。ふくやまSUNブランドの野菜も、クワイをはじめ小松菜や春菊、ホウレンソウ、水菜といった葉物やいちじくが活発に栽培されています。

出前授業をきっかけに農業用水や農業用施設について関心を持っていただき、水路での事故防止など防災について考える機会となればと考え、子ども達に、農業用水路へ近づくことがあったら転落等の事故のないよう充分気をつけるように、また、水路へ入ったりして遊ぶことは大変危険なので絶対にしないようにと呼びかけ、福山市上下水道局の災害備蓄用飲料水「ばらのまち福山の水」を配布しました。

説明後、小野先生からクイズが出題され、みんな元気に答えてくれました。

- ・川口町の農業用水はどこから取水されているか？…七社頭首工
- ・川口町まで流れている用水路は何本に分かれているか？…3本
- ・農業用水は、最後に海に出るが、その施設は？…一ツ樋排水機場



子どもたちからの質問！



施設の名前難しいな！



災害備蓄用飲料水を配りました。

続いて子ども達は、帰校の準備をして駐車場へ降り、福山市農業協同組合川口グリーンセンターを見学しました。福山市農業協同組合川口グリーンセンター 三谷庄一係長から出荷について教えていただきました。

川口グリーンセンターでは、きゅうり、イチジク、くわいの3種類を出荷している事、「くわい」を出荷するときは、縁起物ということで紅白の幕を張って出荷している事などを教えていただきました。

11月に「くわい」を出荷するときは、是非、川口小学校に取材してもらいたいと話がありました。



丁寧に教えてもらったよ！



いろんな物が置いてあるよ！